

## 1. はじめに

この行政評価は、効率的で効果的な行政運営を推進するために、宮田村が行う事務事業を評価するもので、むらづくり基本条例に規定されています。

当評価委員会で行う評価は、行政自らが行った「内部評価」の結果を受けて実施する「外部評価」として位置づけられており、宮田村が令和元年度に実施した内部評価である事務事業評価結果を基に評価を行ったものです。また評価に加え、効率的で効果的な事業の推進を図るための提言も含め後述のとおり取りまとめました。

なお、評価委員会の構成は以下のとおりです。

委員長	山本哲也（八十二銀行 宮田支店長）
	上原 守（アルプス中央信用金庫 宮田支店長）
	三沢文明（税理士）
	千頭 聡（日本福祉大学 教授）
	中塚美佳（むらづくり委員会）
	中谷洋子（公募）
	杉山久美（公募）
	小田切 等（公募）

## 2. 評価の日程と方法

評価の日程と評価の方法は、以下及び別紙「評価結果シート」のとおりです。

- ・ 第1回行政評価委員会 令和元年 9月 9日 午後1時～3時  
(評価事業：輝く子育て応援事業／小学校教育振興事業／青少年健全育成事業)
- ・ 第2回行政評価委員会 令和元年 9月 26日 午後1時～3時  
(評価事業：ボランティアセンター運営事業／福祉タクシー事業／精神保健事業)
- ・ 第3回行政評価委員会 令和元年 10月 8日 午後1時～3時  
(農業振興事業／商工業支援事業／観光振興事業)
- ・ 第4回行政評価委員会 令和元年 10月 29日 午後1時～3時  
(評価のまとめ／報告書の作成)

### 3. 評価の総括

村で実施した全事業の評価シートの中から、9事業を行政評価委員が選定して評価を行いました。本項では、その中で上げられた評価全体に関する総体的な課題などについてまとめました。

#### (1) 評価基準の検討

この行政評価は、サービス受給者（住民）としての視点に加え、受給者以外の視点からも客観的な評価ができる仕組みとして、有意義な取り組みであると評価しています。

しかし、4つの評価項目点数の積み上げにより算出された総合評価の「A」～「D」が、最終的な評価結果となることに、違和感を持つ事業があることも確かです。コメントにより改善点なども追記し、あわせて評価結果としていますが、次年度以降に向け、評価算出方法の見直しや評価基準の均一化について検討が必要と考えます。

また、各シートに記載されている、指標や数値については、評価の基準となる非常に重要なものとなりますので、効果を端的に表す指標の設定や、推移を同条件で比較できる数値を用いて、正確な評価ができる記載をするようお願いをします。

#### (2) 評価制度の活用

取り組む事務事業を自ら評価し、さらに外部からの目でもチェックをすることは、よりよい村政を進める上で非常に有意義なことだと思ふことから、今後も続けていってほしいと考えます。

しかし、作成された評価シートを見る限りでは、シートを作成することだけで完結してしまっているのではないかと疑問を感じる事務事業もあります。

実施している事業の目的を捉え、PDCAのサイクルを回すことで、事務事業をスパイラルアップしていくことこそ重要だと考えます。評価結果と指摘事項を確実に改善に向けられるよう、この行政評価のシステムのさらなる有効活用をお願いします。

前年度実施した事務事業の評価結果を、より早い段階で事業に反映できるよう、評価時期の前倒しについても次年度に向け検討を進める必要があります。

### 4. 評価結果

別紙「評価結果シート」のとおりです。

# 評価結果シート

【令和元年度行政評価委員会】

事務事業名	輝く子育て応援事業				
担当課	教育委員会				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		8人			
総合判定 所見	<p>人口減・少子化対策、また宮田村の魅力として「子育て支援の充実」を打ち出すという点では、移住定住促進対策としても必要性は大きい。 ただし、財政的負担も大きいことから、十分な効果検証を行いながら事業実施をしていく必要がある。</p>				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	3.9	4.5	4.3	3.9	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他市町村にない施策ということで有効性は高いと思うが、一方で行政負担も大きい。この施策があるから来る、という人がどれだけいるのか効果検証が必要。</li> <li>・利用している人たちは助かっていると思うが、村としての効果を検証した方がよい。</li> <li>・小さい子どもの支援は手厚いが、もっと上の世代(中学生以上)の支援はない。一番お金がかかる世代なので、支援を手厚くしてほしい。</li> <li>・人口減少対策として有意義な施策であり住民のニーズも高い。子育て支援は宮田村の魅力のひとつなので実施すべき</li> <li>・行政だけではなく村民が自分たちでもアピールしやすいような情報発信を。</li> <li>・ファミリーサポート助成の利用率が少ないのはなぜか？ 関係のある職員(担当している方だけでなく)が集まり、話し合ってもよいのでは。制度自体の課題とあわせて検討した方がよいのではないか。</li> <li>・財源としてふるさと納税(基金繰入・H29)が充てられているが、応援していただけるように、使途や成果などをもっとPRして、さらに応援していただけるようにPRする必要がある。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果検証の実施</li> <li>・ファミリーサポート助成利用率向上のためのヒアリング実施</li> <li>・中学生、高校生世代などへの支援検討</li> </ul>				

事務事業名	小学校教育振興事務				
担当課	教育委員会				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		8人			
総合判定 所見	支援が必要な児童に対するきめ細かな支援を引き続き実施していく必要がある。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.6	4.5	4.5	3.9	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員の配置は重要。手厚い支援をお願いしたい。</li> <li>・3分の2が学級支援員の人件費。9名の在籍であり削減は難しい。適正支出であると思う。</li> <li>・不登校の子どもたちについても精神面、学力面のフォローをより行ってほしい。</li> <li>・ICTの導入は、効果的な活用が重要。今後、より効果的に使われていくとよいと思う。</li> <li>・ICT教育導入に当たっては、電磁波などによる児童の体調への影響がないか検証が必要。また、ネット被害やゲーム依存などICT導入に伴う負の側面も捉え、その予防をする教育を同時にすすめてほしい。</li> <li>・有効性を示す指標をさらに検討すべき。事業内容も含めシート記載内容を検討してほしい。</li> </ul>				
提言	・ICTを有効に活用するため、指導をする先生に対し積極的支援の実施				

事務事業名	青少年健全育成事業				
担当課	教育委員会				
総合判定	B	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		4人	3人	1人	
総合判定 所見	<p>地域と子どもたちのつながりを維持するためにも必要な事業だと考える。 ただし、個々の事業の内容や、支援方法などについては、事業全体の目的を再確認した上で、検討し改善していく必要がある。</p>				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	3.8	3.5	3.5	3.1	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズの部分が減少傾向と記載されているが、ニーズを本当に把握しているのか。子どもたちの状況も変わってきているので、いつか活動内容を変えるときも来るのではないかと思う。</li> <li>・現在の事業が固定化した部分大きいと感じる。何か他にもっとソフト面も含めて検討していただけたら。</li> <li>・新しいものを作り出すのも1つの手段だが、今年の防災訓練に中学生が参加したように、今あるものに子ども達が参加し、地域と繋がっていったらいいのかなと思う。</li> <li>・せっかく地区で集まれる貴重な機会なので、もっと中身ややり方を見直して、参加する側が主体的に関わっていかれたり、健全育成の意義を感じながら活動ができるといい。</li> <li>・子どもに働きかける部分も大事だが、親が自信をもって子育てできるよう、親の教育があるといい。</li> <li>・唯一の課外事業の場であるため、色々な人と関わって、子ども達が社会に出られるようにもっていったらいいと思う。改善するところはあるが、こういうことにはお金をかけてもいいのでは。</li> <li>・伝統行事は必要だと思うが、今の社会にあった事業なのかというところが疑問。評価は厳しめにつけたが活動自体は評価する。</li> <li>・育成会役員などの声を聴き、発想の転換と幅広くできるだけ大勢が参加できる事業を検討する必要がある。</li> <li>・活動に関わる親にも事業目的を理解してもらえるように啓発する必要がある。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目的をふまえ、今の社会にあった事業内容を検討する</li> </ul>				

事務事業名	ボランティアセンター運営事業				
担当課	福祉課				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		5人		1人	
総合判定 所見	<p>高齢者世帯が増加する中で、今後ニーズの増大が予想される。 ニーズの掘り起こしを行いながら、支えあいの仕組みを引き続き構築していく必要がある。</p>				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	3.5	4.2	3.8	3.5	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼間ボランティアは働いている現役の方々にはなかなか厳しい。30代、40代、50代、60代も参加できるようなボランティアの募集の仕方を考えて欲しい。</li> <li>・先を見据えるとファミサポやコミュニティースクールも含めた形でボランティアの仕組みを作った方が良いのでは。</li> <li>・村全体のためにというのは難しくても区だけでなら気楽にやれるよという方もいると思う。区の中でもっと自主的なお助け隊をつくるやり方もあると思う。 区単位の自助、共助の仕組みの視点が入れば、福祉の部分や高齢者、こどもの部分ももっと広げていけると思う。宮田村だったらできるのでは。</li> <li>・ニーズの深堀りと、マッチしたボランティアの募集が必要。ニーズが深堀りできていない以上、有効性の判断は難しい。ニーズ/シーズのバランス状況が見えないと効率性も評価しにくい。</li> <li>・個人個人で「人に言えないが」という思いをもっている人(ニーズ)がたくさんある。もっと引き出すような努力は必要。</li> <li>・今は予算を増やすのではなく、今ある財源・人のパワーの中で、ボランティア登録数を増やす土台を作っていく時期だと思います。これからの活動や住民、事務側の動きが楽しみです。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要とする側の需要(ニーズ)と提供側の体制(シーズ)の見える化によるボランティア募集</li> <li>・区ごとでの共助のしくみづくりに対する支援の検討</li> </ul>				

事務事業名	福祉タクシー事業				
担当課	福祉課				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		5人	1人		
総合判定 所見	高齢者の足の確保、経済活動に対する補助という面でも事業効果は大きいと感じる。ニーズや利用実態を調査分析し、制度のブラッシュアップを図る必要がある。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	3.7	3.7	4.2	3.7	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用目的ごとの利用実態を提示する必要があるのではないか。</li> <li>・昨年、一昨年と評価結果で「ニーズと課題を調査」という事務局からのコメントがついている。願わくば今年は調べてみたらこうでした、だから効果があります、というふうに評価制度を生かしてもらいたい。</li> <li>・元気なシニアが動けば経済活動につながるという考え方もある。一方で、年度末の利用が多いのは溜め込んでいたのを使ってしまった、という動きではないか。本当にニーズや実態に合っているのか分析は必要だと思う。</li> <li>・利用率(目的別)を確認していく中で配布枚数等、再検討が必要</li> <li>・事業としては福祉面以外の経済効果が見込める。</li> <li>・このタクシー券を何のために配っているのか。高齢者の日常を支えるためのものなのか、病気になったときの通院のためか。どちらなのか分からない。</li> <li>・村外の業者も利用できることを積極的にアピールすることが必要。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の施策展開に活かせるよう利用実態の調査を行う</li> <li>・デマンドタクシーや広域連携による循環バスの村内運行の検討を行う</li> </ul>				

事務事業名	精神保健事業				
担当課	福祉課				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		6人			
総合判定 所見	ニーズの把握方法を研究し、柔軟な対応ができる体制を構築していく必要がある。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	3.8	4.2	4.3	3.5	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに対するケアは？ 子どもは教育委員会、というような区分けをするのではなく、福祉課でも受け入れの窓口を。学校にはスクールカウンセラーがいると思うので、引継ぎみたいなものが上手くできればよい</li> <li>・外国から来た方たちもケアして欲しい。</li> <li>・家族への支援も重要</li> <li>・目に見えやすい効果は得られがたいと思いますが、日々の活動(住民の方と接する機会)を大切にされていて、事業の効果は確実に出ているのではないかと思います。</li> <li>・非常に難しい事業で、ニーズも多様化している。ニーズをよく拾って硬直的ではなく柔軟に取り組んでいただきたい</li> <li>・民間で対応可能な部分あり。つなぎ役としての役割でも良い部分あるように思える。広域での対応、連携も検討すべき。</li> <li>・行政の窓口には相談しにくいと思う。民間やNPOなどとの連携や、民生委員や近所の方など地域でフォローする仕組みが必要では。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・潜在的な要フォロー者に対し、具体的で目に止まるチラシ(兆候がわかるチェックシートなど)により、さまざまな相談機関を案内し、相談に結び付けることができる広報を実施する</li> <li>・精神保健に関してどんな施策、体制を取るのかを庁内に徹底することで、フォローができる職員体制を厚くする</li> </ul>				

事務事業名	農業振興事業				
担当課	産業振興推進室				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		8人			
総合判定 所見	<p>農業は村の基幹産業のひとつであり、優良農地の保全確保、担い手の確保の面からも必要性が高い事業だと考える。</p> <p>農業の振興、担い手確保策のひとつとして取り組んでいる6次産業の拡大に向けてマーケットインの視点に立った事業展開をしていく必要がある。</p>				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.1	4.4	4.0	4.0	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業は村の基幹産業のひとつであり、力を入れる必要があると思う。</li> <li>・優良農地の確保、農業就労者確保からも必要性は高い。住民では対応しきれない部分も多く、ニーズは高いと感じた。</li> <li>・6次産業化は、生産者が生産だけでなく加工・販売することで利益を上げ、担い手を増やしていこうということ。一番大事なのは販売で販路を確保することが大事。紫輝についても価格が高いとは思わない。マーケットインの感覚があるかどうかだと思う。</li> <li>・6次産業化に失敗しているところは、需要を考えずにやっている。ぜひ新製品の開発のためにも消費者の声を聴ける仕組みを。消費者側の声を聞くチャンネルを増やしたほうがよい。</li> <li>・今後も「宮田方式」の意義を理解してもらい、制度を維持していくことが重要。</li> <li>・若い世代の新規就農者も増えてきているが、農地を守り継続させていくためには、リタイア世代の就農を増やしていく支援策も必要と考える。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業の拡大に向け消費者の声を聴ける仕組みを構築する</li> <li>・新規就農のみでなく、リタイア世代などの就農に対する支援策を検討する</li> </ul>				

事務事業名	商工業支援事業				
担当課	産業振興推進室				
総合判定	B	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		6人	1人		1人
総合判定 所見	活動内容と事業実績を十分に把握、検証しながら支援を行う必要がある。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	3.6	3.3	3.3	3.5	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工会の活動内容をよく把握しながら支援が必要。</li> <li>・消費者のニーズに合っているのか。必要性があり住民が地元企業を利用するメリットを作る必要がある。</li> <li>・商工会会員の事業貢献は高く、必要である事業と思われる。</li> <li>・商工会の経費のかけ方に工夫が見られ、改善方向にあると思う。</li> <li>・効果の把握方法が不明確。プレミアム商品券事業の総括もやや曖昧な感じがする。</li> </ul>				
提言	・商業活性化のためのインフラ整備(駐車場等)など村としての独自支援を検討する				

事務事業名	観光振興事業				
担当課	産業振興推進室				
総合判定	A	委員評価状況			
		A(現状維持)	B(改善)	C(縮小・見直し)	D(廃止)
		8人			
総合判定 所見	交流人口の増加、活力あるむらづくりに向け、有効な事業だが、限られた財源の中、ニーズを把握し、有効的で集中的な投資とPRが必要になってくると考える。				
項目別 平均点 (5点満点)	必要性	有効性	効率性	優先性	
	4.1	3.8	3.8	3.8	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源が少ない中で、宮田高原は、非常に有効な観光資源であると思う。人気のキャンプ地はトイレやシャワー室が充実しているので、そういったところの整備も検討していただけたらと思う。</li> <li>・以前は「風まつり」というイベントがあったが、ぜひ今後はそういったイベントも検討して欲しい。</li> <li>・吹奏楽の合宿に使える施設があるのは強みになる。</li> <li>・国定公園指定により、費用はある程度投資していくことが必要。</li> <li>・季節的なかたより。PRの仕方の工夫が必要だと思う。</li> <li>・レンゲツツジやイタリアンレストランなど、ますます魅力を高め、村民のみならず村外からも40分かけても行ってみたいくなる宮田高原にしてほしい。</li> <li>・観光客目線に立てば、プラスたった40分で魅力あるあの場所に行けるとも言える。村民はあまり気がつかないが、大きな木にかかるブランコだけでも魅力的。そんな視点も理解してPRすることが必要では。</li> <li>・魅力を高めるためにも宮田高原バンガローの備品や設備の整備をしっかりとってほしい。</li> </ul>				
提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国定公園化のメリットを生かしたPRを展開する</li> </ul>				